

提出日： 2024 年 7 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部	教授	伊藤 伸介

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日	1
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日	
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日	
	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	公的統計や行政記録情報を含む大規模データの利活用の可能性を追究するために、大規模データの作成・提供の動向に関して、海外における統計作成部局および関係機関へのヒアリング調査を行い、諸外国における大規模データの提供状況や二次利用の最新動向を明らかにした。また、主として世帯・人口系の公的統計マイクロデータを用いて、わが国の家計消費等に関して実証的な社会経済研究を行った。さらに、わが国における大規模データの安全性(秘匿性)や有用性に関する定量的な評価基準に関しても調査研究を行った。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	海外における統計作成部局や関係機関へのヒアリング調査に基づいて、海外での公的統計と行政記録情報の提供の最新状況について学会・研究会で研究発表を行っただけでなく、拙稿「海外におけるマイクロデータの利活用推進に向けた取り組み状況—リモートアクセスを中心に—」を刊行した(『経済学論纂』第 65 巻1号に掲載)。公的統計マイクロデータによる実証分析の成果に関しても、統計関連学会連合大会等で学会報告を行った。公的統計データにおける安全性基準の適用可能性については、UNECE 主催の「統計データの機密保護に関する専門家会議」において研究報告を行うだけでなく、論文の刊行という形で研究成果を発表した。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	海外における公的統計マイクロデータや行政記録情報に関する利活用の動向や匿名化措置の適用状況をさらに追究するだけでなく、海外の公的大規模データに関するリンケージの動向について明らかにすることを計画している。また、複数の公的統計のマイクロデータをリンケージした上で、わが国におけるリンケージデータのさらなる可能性についての実証研究を展開する予定である。さらに、大規模データにおける安全性や有用性に関する評価に関する調査研究についても、詳細な統計表を対象にした比較・検証の可能性を模索していきたい。	